

(様式3-2)

# 愛知県英語教育改善プラン

実施内容

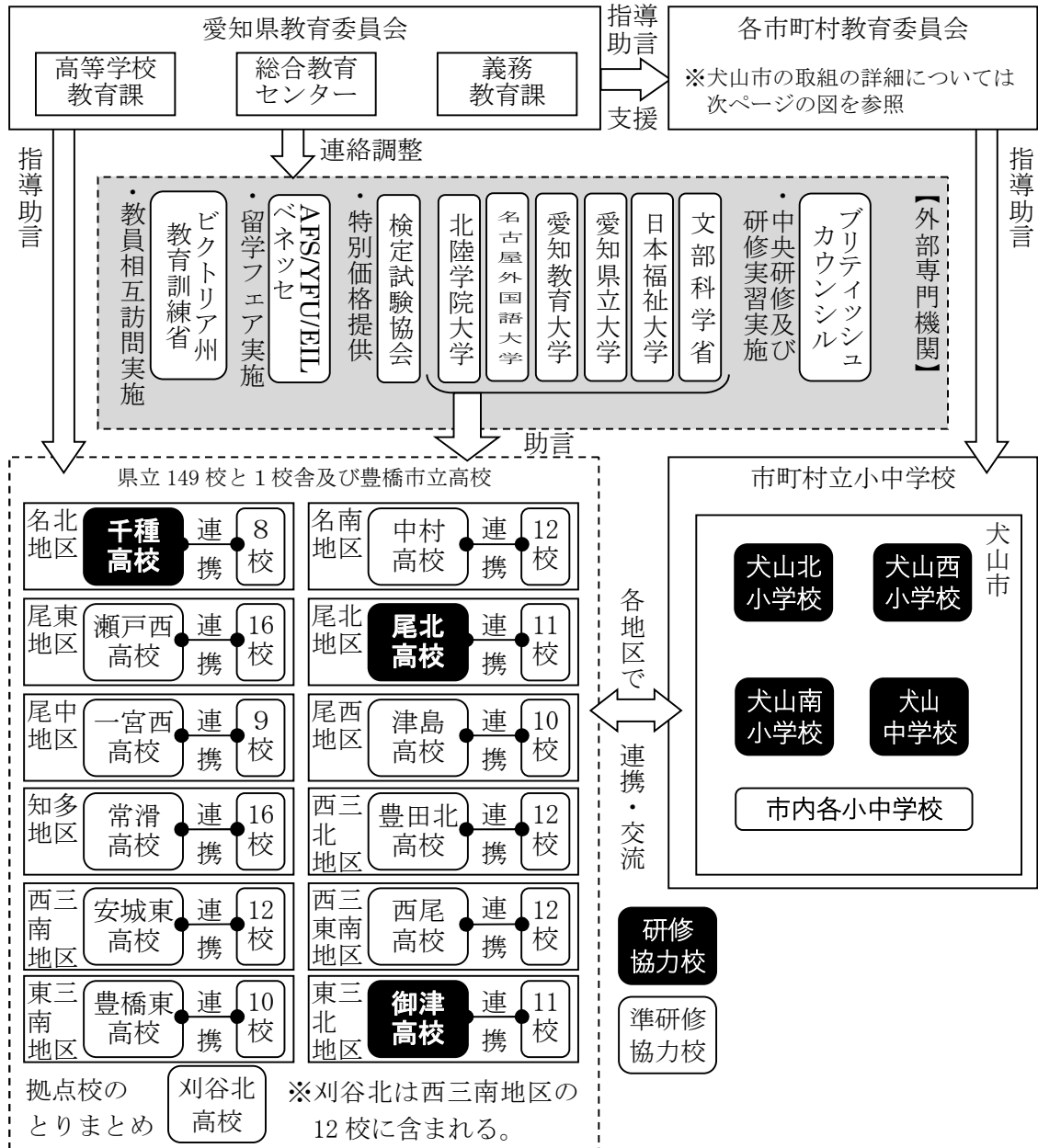
(1) 研修体制の概要

◆県内全域の県立高校の英語科教員に向けた研修等

ア 外部専門機関との連携

地域の英語教育に関する学部、学科等をもつ大学等と連携しながら本事業を進める。また、本県の英語教育に関して、継続的な協力を得られている大学との連携をさらに深め、外部有識者（大学教授等）を運営指導委員とし、研修協力校における英語指導力の向上のための継続的な指導を行うとともに、研修協力校等で行われる公開授業や小中高連携連絡協議会に参加し、助言者としての役割を担う。

イ 研修組織図



研修協力校を7校設置（高校3，中学校1，小学校3）し、校内において英語指導力向上講座を実施し、当該校の英語科教員の英語力と指導力の向上に資する。

また、県内を12地区に分け、本事業の研修協力校（3校）と準研修協力校（10校）を各地区における英語教育推進校（以下「拠点校」という。）に指定し、各地区における研修会の企画運営や小中学校との連携を委ねる。

ウ 研修

英語を高いレベルで使いこなす人材の育成を目指し、県内 12 地区において、拠点校を中心に、研究授業や研究協議，ワークショップ，講演会などを実施する。地区内の英語科教員全体に研究成果を還元することで、県立高校 149 校全体の英語力の向上を目指す。

また、英語教育推進リーダー中央研修に参加した教員を講師とした「英語教育指導者研修（研修実習）」を、それぞれの所属校を会場として実施することで、教員の指導力向上に資する。

オ 小中高の連携

県内 12 地区において、ハブスクールと連携する中学校との相互の授業参観と研究協議を行う。地区内の他の高等学校や近隣の小中学校の教員にも参加を促す。

◆特定地域の教育委員会に再委託して行う、地域内の小中学校の英語力指導力向上に係る事業

ア 犬山市教育委員会が主体となり、研修の企画・運営，外部専門機関等の連絡調整を進める。

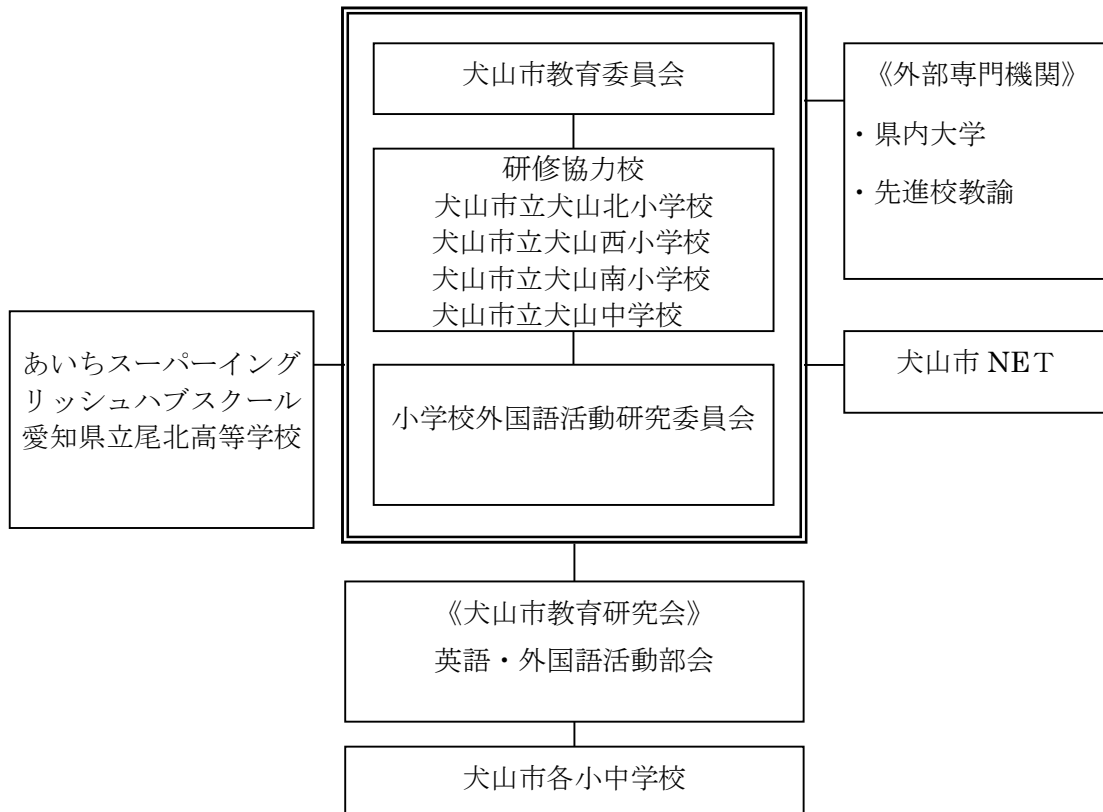
- ・ 小学校英語教科化を見据え、どの学校も無理なく、不安なく外国語活動が推進できる必要条件を探るため、大学・外国語活動先進校等の外部専門機関との連携を図り、犬山市内の小学校の指針となるように検討をする。

イ 犬山市内 1 中学校と 3 小学校を研修協力校とし、市内小中学校の外国語活動・英語担当教員の指導力の向上を目指す。

- ・ 犬山市教育研究会英語部会と連携を図り、小学校外国語活動研究委員会を中心に、本研修事業を推進する。
- ・ 研修協力校の実践研究を通して、英語学習と外国語活動の指導の在り方を追究する。
- ・ 研修協力校 4 校の成果を犬山市内の小中学校に公表・普及する。

ウ 小中高の連携を進めるために、愛知スーパーイングリッシュハブスクール事業を推進する尾北高等学校との連携を密にし、小学校外国語活動研究委員会、英語・外国語活動部会などを通して、各学校の教員の情報交換や交流を図る。

エ 犬山市が本事業を通して行った研修等の成果や課題については、愛知県教育委員会義務教育課が行う英語教育担当指導主事会で報告をし、他の市町村への普及を図る。



## (2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

### ○生徒の英語力の向上と目標指標の設定

愛知県教育委員会では、平成 25 年度から、あいち国際戦略プランにおける人材育成を支える、あいちグローバル人材育成事業を立ち上げ、児童・生徒の英語力の強化及び国際交流等を通じた学ぶ意欲の向上に努めてきた。その結果、高校 3 年生時点で、求められる英語力を有する生徒の割合は、平成 29 年度調査で 34.7%であり、国の平均値 36.4%をわずかに下回るものの、本県における過年度比較では、平成 25 年度の 21.5%から約 13 ポイント上昇した。各校において、適切な学習到達目標を設定したり、四技能をバランスよく育成するためのパフォーマンステストを導入したりするなど、一人一人の教員が授業改善を推進してきた成果であると考えられる。しかしながら、授業における生徒の英語による言語活動の実施状況や、英語担当教員の英語使用状況については、学校間で取組に差が見られるなど、改善の余地が残されている。そこで、教育委員会は、各学校が地域や学校の実情や生徒の実態を踏まえながら、生徒の英語力の更なる向上を目指すことができるよう、今年度の目標指標を次のように設定する。

なお、愛知県英語教育改善プランの目標指標を各校に示し、共有する。

### ◆県内全域の県立高校の英語科教員に向けた研修等

#### ○目標 1 求められる英語力を有する教師の割合の向上

##### (1) 目標指標

英検準 1 級程度等の英語力を有する教員の割合を、平成 30 年度までに 70%以上にする。

##### (2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 中央研修参加者を講師とした英語教育指導者研修を、11 地区で 14 時間分実施する。各地区とも、参加者はそれぞれの地区の高等学校から選ばれた教員 25 名程度とする。
- ・ 英語教育指導者研修の参加者が校内研修等を通じて研修の成果を普及することによって、英語科教員の英語力の段階的な向上を目指す。
- ・ 各種研修会等を通じて「特別価格による外部検定受験制度」の更なる活用を促し、受験を推奨する。
- ・ オーストラリア・ビクトリア州との連携により 4 名を海外研修に派遣する。

#### ○目標 2 求められる英語力を有する生徒の割合の向上

##### (1) 目標指標

英検準 2 級程度以上相当の英語力を有する生徒の割合を平成 30 年度までに 45%以上にする。

##### (2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 地区別授業研修等を通じて授業力を高め、生徒の言語活動を中心とした授業の更なる推進を図り、生徒の英語運用力の向上を目指す。
- ・ 外部検定試験の受験を推進することで実際の生徒の英語力を把握・検証し、その後の授業改善の客観性・正確性を高める。
- ・ 高等学校教育課程課題研究班で適切な評価方法の研究を行う。
- ・ ビクトリア州教育省との連携などを通じ、生徒の課外研修や海外留学等を推進する。
- ・ イングリッシュキャンプやイングリッシュ 1 Day ツアーの実施等を通して、国内における異文化体験を推進する。
- ・ 海外からの留学生・派遣団の受け入れなど、海外交流を推進する。

#### ○目標 3 CAN-DO リストの形式での学習到達目標の整備の促進

##### (1) 目標指標

平成 27 年度までに全校で設定した CAN-DO リストの形式での学習到達目標の公表及び達成状況の把握を平成 30 年度までにそれぞれ 40%、60%にする。

##### (2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 授業力向上研修及び地区別授業研修等を通じて、年間学習指導計画や学習指導案にお

ける、CAN-DO リスト形式での学習到達目標の設定を推進する。

- ・ 先進的な取組事例等について、引き続き全県や各地区の研修等で紹介し、授業改善や評価の工夫改善を図る。

○目標 4 生徒の英語による言語活動時間の割合の向上

(1) 目標指標

授業における生徒の英語による言語活動の割合が 50%以上である教員の割合を平成 30 年度までに 55%にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 授業力向上研修，英語教育指導者研修及び地区別授業研修等を通じて，生徒の言語活動を中心とした授業についてのアイデアやノウハウを提供し，各学校における授業改善の更なる推進を図る。

○目標 5 パフォーマンステストの実施状況の改善

(1) 目標指標

各学校における年間のパフォーマンステストの実施回数を，スピーキングテスト及びライティングテストともに平成 30 年度までに 3 回以上にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ CAN-DO リスト形式での学習到達目標の設定を推進する。
- ・ 授業力向上研修，地区別授業研修，地区毎に行われる教務主任連絡協議会等を通じて，評価の工夫・改善について理解を促し，各学校におけるパフォーマンステストの更なる充実を図る。
- ・ 拠点校 12 校に常駐する A L T やビクトリア州教員のノウハウを活用し，ルーブリックの作成やパフォーマンス評価の実施を推進する。
- ・ 全校から 1 名以上の英語科教員が出席する新教育課程研究協議会において，パフォーマンステストの目標実施回数を具体的に伝え，各校におけるさらなる実施の充実を促す。

○目標 6 英語担当教員の英語使用状況の改善

(1) 目標指標

授業における発話の半分以上を英語で行っている教員の割合を，平成 30 年度までに 55%にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 求められる英語力を有する教師の割合を段階的に引き上げる。
- ・ 授業力向上研修，英語教育指導者研修及び地区別授業研修等で，授業を参観させたり英語で行う授業づくりを体験させたりすることにより，生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した授業の更なる推進を図る。

◆特定地域の教育委員会に再委託して行う，地域内の小中学校の英語指導力向上に係る事業

○目標 1 求められる英語力を有する教師の割合の向上

(1) 目標指標

英検準 1 級程度等の英語力を有する中学校教員の割合を，平成 30 年度末までに，50%以上にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 英語学習研修会では，外部専門機関及び市内 N E T と連携して研修を行い，教員が実際に英語を聞いたり話したりする機会を設ける。
- ・ 研修協力校の英語担当教員が研修会で研修の成果を普及することにより，市及び地区の英語科教員の英語力の向上を目指す。
- ・ 夏季休業中の研修では，小中学校の英語担当教員を中心に，N E T の協力を得て，ネイティブイングリッシュをもとにしたワークショップ及び交流会を行い，英語によるコミュ

ニケーション力の向上を目指す。

- ・ 研修協力校の英語担当教員を中心に、外部検定試験の受験を促進する。

○目標2 求められる英語力を有する生徒の割合の向上

(1) 目標指標

英検3級以上相当の英語力を有する生徒の割合を、平成30年度末までに40%以上にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 英語・外国語活動部会では、児童生徒の言語活動を中心とした授業の深化拡充を目指し、生徒の英語力の向上を実現できる授業力の向上を図る。
- ・ 児童生徒の外部検定試験等の受験を啓発・推進する。  
検定試験の結果を踏まえ、児童生徒の英語力の実態を検証し、授業改善に生かす。
- ・ 小学校外国語活動研究委員会では、外国語活動を中心とした授業の活性化を目指し、児童の表現力向上を実現できる授業力の向上を図る。
- ・ 外国語活動に対して、好感度を高める授業づくりを進め、アンケート調査結果の変化に注視する。

○目標3 CAN-DO リストの形式での学習到達目標の整備の促進

(1) 目標指標

CAN-DO リストの形式による学習到達目標を設定し、達成状況の把握を、平成30年度末までに80%以上にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 中学校へのCAN-DOリストのモデルを提示する。
- ・ 各種研修等を通じて、年間学習指導計画や学習指導案における、CAN-DOリスト形式での学習到達目標の設定を推進する。
- ・ CAN-DO リストの形式による学習到達目標に係る先進的な事例について、各地区や全県の情報を集め、整備する。
- ・ CAN-DO リストを年間指導計画の中に位置付ける。
- ・ 外国語活動研究委員会では、リストに基づき、児童の目標達成度の評価・分析をする。

○目標4 生徒の英語による言語活動時間の割合の向上

(1) 目標指標

中学校英語科では、生徒の英語による言語活動時間の割合が50%以上である教員の割合を、平成30年度末までに80%にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ あいちスーパーイングリッシュハブスクールとの連携を密にし、英語授業力向上研修などを通して、各学校の英語担当教員の情報交換や交流を図る。
- ・ 聞いたり、読んだ入りしたに基づき、話したり書いたりする技能統合型の言語活動を導入する。
- ・ 外国語活動担当教員による研修会及び授業研究会において、児童の言語活動に視点をおいた授業内容及び構成の工夫を促し、市全体の授業の改善を図る。

○目標5 スピーキング・ライティングテストの実施状況の改善

(1) 目標指標

各学校における年間のスピーキング・ライティングテストの実施回数を、平成30年度末まで15回程度にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ CAN-DO リストの形式による学習到達目標の設定を推進する。
- ・ 外国語活動担当教員による授業研究会・研究協議会を通して、スピーキング・ライティングテストの方法や評価について、工夫・改善を検討し、各校の授業の質的向上に生かす。

- ・ 児童が外国語活動で養った表現力やスピーチ力を活かして発表する機会を設け、児童生徒がともに学び合う場を設定する。

○目標6 英語担当教員の英語使用状況の改善

(1) 目標指標

授業における発話の50%以上を英語で行う教員の割合を、平成30年度末までに70%にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 求められる英語力を有する教師の割合を段階的に引き上げる。
- ・ 各種研修を通して授業を参観したり、英語を行う授業づくりを体験させたりすることにより、生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した授業のさらなる推進を図る
- ・ 小学校外国語活動研究委員会や授業研究会・研究協議会では、市内NETや外部専門機関からの講師による指導及び交流の場を作り、教員の授業力の向上を段階的に目指す。
- ・ 研究授業の公開や、事後の研究協議会を通して、授業実践を間近に参観する等、児童の表現力の育成を目指した授業力の向上を図る。

(3) 研修の体系と内容の具体

◆県内全域の県立高校の英語科教員に向けた研修等

1 授業力向上研修

(1) 研修対象者

各県立高等学校英語科教員1名

(2) 研修目的・内容

英語科教員の授業力の向上を目的として、外部有識者を講師として招聘し、学習指導要領の趣旨を踏まえた講演会等を年に3回実施する。第1回と第3回は、尾張、三河の2地区に分かれ、研修協力校が企画・運営に携わる。

(3) 受講予定者数

149名

(4) 研修の評価方法

研修後に実施するアンケートの結果を分析して評価する。

2 イングリッシュ・フォーラム

(1) 研修対象者

各県立高等学校英語科教員1名

(2) 研修目的・内容

研修協力校及び準研修協力校の1年間の取組等の成果を、県内全ての県立高等学校に普及・還元することを目的として、全体発表会と分科会を実施する。

(3) 受講予定者数

149名

(4) 研修の評価方法

研修後に実施するアンケートの結果を分析して評価する。

3 英語教育指導者研修

(1) 研修対象者

県立高等学校英語科教員

(2) 研修目的・内容

中央での研修成果を県立高等学校への普及・還元し、県立高等学校全体の英語科教員の授業力を向上させることを目的として、中央での研修を受けた英語教育推進リーダー(11名)を講師として県内11か所(参加者は1か所につき25名程度)において英語指導者研修を実

施する。平成 29 年度までの受講者は 564 名。平成 32 年度までに英語科教員全員が受講を完了する予定である。

- (3) 受講予定者数  
275 名
- (4) 研修の評価方法  
研修後に実施するアンケートの結果を分析して評価する。

#### 4 英語指導力向上講座

- (1) 研修対象者  
研修協力校英語科教員
- (2) 研修目的・内容  
研修協力校の英語科教員の英語力や指導力の向上を目的として、研修協力校それぞれにおいて自校の教員向けの講座を年間 3 回程度実施する。
- (3) 受講予定者数  
約 20 名
- (4) 研修の評価方法  
ハブスクール連絡協議会の際に研修成果を報告し、協議する。
- (5) 外部専門機関及び研修協力校との関わり
  - ・ブリティッシュカウンシルやアメリカンセンター等から講師を招聘する。(年 1 回)
  - ・連携する愛知教育大学、愛知県立大学、日本福祉大学、名古屋外国語大学、北陸学院大学等からも講師を招聘する。(年 2 回)

#### 5 ビクトリア州との教員交換研修

- (1) 研修対象者  
派遣：研修協力校及び準研修協力校（拠点校）英語科教員  
受入：ビクトリア州のセカンダリースクールの教員
- (2) 研修目的・内容  
教員のスキルアップ及び生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を目的とし、互いの学校を訪問する。
- (3) 参加予定者数  
派遣は 4 名、受入は 4 名。
- (4) 研修の評価方法  
実施後の研修報告書を分析して評価する。
- (5) 外部専門機関及び研修協力校との関わり
  - ・ビクトリア州教育省と連携し、ビクトリア州のセカンダリースクールへ県立高校の英語教員を派遣し、ビクトリア州の教員を県立高校で受け入れる。

○上に示す「授業力」の変容を捉える手段としては、生徒の変化を主な判断材料とする。生徒の変化については、授業評価アンケートや G T E C 等の外部検定試験等の結果を用いる。また、授業力向上の前提として教師の英語力が求められるが、英語力を測る手段としては「英語力評価テスト」として英検、TOEFL (iBT)、TOEIC 公開テスト、GTEC CTE、ケンブリッジ英検等の外部検定受験制度を用いる。

#### ◆特定地域の教育委員会に再委託して行う、地域内の小中学校の英語指導力向上に係る事業

##### 1 研修名 研修 1 (小学校英語教科化に向けて)

- (1) 研修対象者  
市内小学校外国語活動・中学校英語担当者 教務主任
- (2) 研修目的・内容



<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習内容も見据え，どんな教材を準備していく必要があるかを検討する。</li> <li>・ 外部人材の活用支援等により，専門性を一層重視した指導体制を構築するよう検討する。</li> </ul>
(3) 受講予定者数 30 名
(4) 研修の評価方法 研修後のレポート
(5) 外部専門機関及び研修協力校との関わり <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内研修協力校におい授業研究を公開し，より多くの先生方に授業を参観していただく。</li> <li>・ 外部専門機関等からの講師による指導のもと，研修協力校を中心に，授業研究後の研究協議を行い，指導・助言を受ける。</li> </ul>
2 研修名 研修 2（英語授業力向上に向けて）
(1) 研修対象者 市内小学校外国語活動・中学校英語担当者
(2) 研修目的・内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内英語担当教員の授業研究及び研究協議会を行う。</li> <li>・ 外部専門機関（授業名人等）による模擬授業を行う。</li> </ul>
(3) 受講予定者数 30 名
(4) 研修の評価方法 研修後のレポート
(5) 外部専門機関及び研修協力校との関わり <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部専門機関等からの講師による指導のもと，研究協議会を行い，英語担当教員の英語使用状況，児童生徒の英語力の評価・分析等の観点から，指導法等を追究する。</li> <li>・ 外部専門機関等からの講師による模擬授業では，授業における発話等，英語力の向上を図る。</li> <li>・ 高校英語担当教員との情報交換や交流を密にし，中学校から高校への接続，指導の連携を図る。</li> </ul>
○ 上記の研修については，愛知県教育委員会義務教育課が行う英語教育担当指導主事会で報告をし，他の市町村への普及を図る。

#### （4）年間事業計画

##### ◆県内全域の県立高校の英語科教員に向けた研修等

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月	第1回ハブスクール連絡協議会 第1回地区別授業研修（拠点校） 第1回英語教育指導者研修 第1回英語指導力向上講座（研修協力校）	県内大学等 県内大学等
6月	第2回英語教育指導者研修 第1回授業力向上研修 留学フェア	県内大学等 留学斡旋団体等
7月	教員交換事業（派遣）（～8月）	オーストラリア・ビクトリア州教育省
8月	教育課程愛知県説明会 第2回授業力向上研修 第3回英語教育指導者研修	県内大学等
9月	第2回英語指導力向上講座（研修協力校）	県内大学等
10月	第2回地区別授業研修（拠点校） 第4回英語教育指導者研修	県内大学等

11月	教員交換事業（受入）（～12月）	オーストラリア・ビクトリア州教育省
12月	イングリッシュ・フォーラム 第2回ハブスクール連絡協議会 第5回英語教育指導者研修 第3回英語指導力向上講座（研修協力校）	県内大学等 県内大学等 県内大学等
1月		
2月		
3月		
【その他の取組】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英検 I B A 受検（時期：5月～11月，対象：研修協力校及び準研修協力校等 11校）</li> <li>・グローバル語り部（時期：6月～3月，対象：40校程度，大学及び各種国際機関等）</li> </ul>		

◆特定地域の教育委員会に再委託して行う，地域内の小中学校の英語指導力向上に係る事業

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	・犬山市教育研究会英語部会，小学校外国語活動研究委員会，研修協力校による打合せ	
5月	＜研1（小学校英語教科化）・研2（英語授業力向上）＞授業研修会① ・研修協力校及び外国語担当者による研修事活動業の目的・計画を提示し，研修体制づくり ・授業研究に向けた指導案検討会	・NET 外部講師
6月	＜研1（小学校英語教科化）＞授業研修会② ・研修協力校における授業研究・研究協議 ・小学校の先生方に向けて外国語活動の授業公開	・外部講師
7月	＜研2（英語授業力向上）＞授業研修会③ ・研修協力校における授業研究・研究協議 ・中学校の英語の授業公開	・NET ・高校教員
8月	＜研1（小学校英語教科化）＞授業研修会④ ・研修協力校の成果と課題を検討する。 ＜研2（英語授業力向上）＞授業力向上研修会① ・外国語活動・英語授業力向上のための研修会を行う。	・外部講師 ・NET ・県内大学教員
9月	＜研1（小学校英語教科化）＞授業研究会⑤ ・外国語活動の授業研究に向けた指導案検討会 ・外部講師による模擬授業・研究協議	・外部講師
10月	＜研1（小学校英語教科化）＞授業研修会⑥ ・研修協力校における授業研究・研究協議 ・小学校の先生方に向けて外国語活動の授業公開	・NET ・外部講師
11月	＜研2（英語授業力向上）＞授業研修会⑦ ・研修協力校における授業研究・研究協議 ・中学校の英語の授業公開	・NET ・高校教員
12月	＜研2（英語授業力向上）＞授業力向上研修会② ・研究の成果と改善について協議 ・外国語活動・英語授業力向上のための研修会を行う。	・外部講師 ・NET ・県内大学教員

1月	<研1（小学校英語教科化）>授業研究会⑧ ・外国語活動の授業力向上に向けて外部講師による模擬授業の公開と研究協議	・外部講師
2月	<研1（小学校英語教科化）・研2>英語学習研修会⑥ ・研究の成果と改善について協議 ・英語教育担当指導主事会での事業報告	・県内大学教員
3月		
【その他の取組】		

